

第3回 会津若松市健康づくり推進協議会 会議録

- 1 日 時 令和6年1月23日(火) 13:00~14:20
- 2 場 所 会津若松市生涯学習総合センター「會津稽古堂」多目的ホール
- 3 出席者 委員17名(委員19名のうち2名欠席)
事務局：市長、健康福祉部長、副部長、副部長兼健康増進課長、
健康増進課職員3名

4 会 議

(1) 諮問 「第3次健康わかまつ21計画」の諮問(市長より会長へ)。

(2) 市長あいさつ

(3) 会長あいさつ

(4) 議事(矢吹会長を議長として進行)

①第3次健康わかまつ21計画について

・事務局(副部長兼健康増進課長)より資料説明を行い、質疑応答を行った。

【質疑応答】

- 委員 : ①58ページ(計画の基本目標):健康づくりにおいて「認知症予防」は欠かせない。医療費も多くなり、具体的に記述することはできないか。
- ②59ページ(計画の基本方針「基本方針2」の後段):わかりやすい表現とするため、「早期発見・早期治療、～」の前に「人間ドックや定期健診等による」を挿入してはどうか。受診率が低い定期健診の推奨にも繋がると考える。
- ③59ページ(「基本方針2」のタイトル):表現的にわかりやすく、②同様に前に、「人間ドックや定期健診等による」を挿入してはどうか。
- 事務局 : ①「認知症」は、高齢者が介護状態となる一番多い原因と認識している。しかしながら、本計画は健康づくり全般に関するものであり、認知症予防は介護予防に関する取組になるため、高齢者施策にて具体的に盛り込むことになる。もちろん連携して取組を進めていくことになるが、当該計画での記載は予定していない。
- ②③「人間ドック」等の具体的な例示を取り上げてはどうか、という趣旨と思われるが、例示を入れることが逆にそれ以外の手法や可能性が消去されてしまう恐れがあり、わかりやすい表現として例示をどの程度まで入れられるのかは検討が必要。
- 委員 : ①「認知症対策」は、高齢者施策での対応ということであったが、健康づくりとは切り離せない内容と考えるため、会長(議長)の意見を伺いたい。
- 議長 : 認知症基本法が昨年施行され、わかりやすく説明すると、みんなで仲良く支えあって暮らせる地域にしていきたいと思いますというメッセージであり、その文言追加はあってしかるべきものとは考える。
- ただ、事務局回答では、市の高齢者施策として別の取組の範疇とのこと。
- 本計画は生活習慣病予防を中心の取組としており、様々な疾患にかかる対応が別という整理で、例えば認知症において段階的に必要な対応が示されるというのであ

れば、(本計画に記載がなくとも)支障ないと思うが、事務局の見解は。

- 事務局 : 本計画は、生活習慣病に至らないよう、予防のための取組をまとめており、健康づくりに関する意識を持ちましょうというもの。介護予防については別にまとめている。
- 議長 : 市で整理されているのであれば、必ずしも「認知症」という言葉を追加する必要はないものと思われるがいかがか。
- 委員 : 了解した。続けて、意見として発言させていただく。
④61ページ(施策の重なりイメージ図):食育推進・健康増進・自殺対策の各分野の施策のイメージについては、国の図と思われるが、健康増進の中に「運動推進」の記載がないように受け取れる。健康づくりの基本は身体運動と考えるため。
⑤75ページ(喫煙の現状と課題):過去に中高生が部室で喫煙したという事例において、一緒にいる者に喫煙を勧めたり、断わるといじめたりする案件もある。教育委員会等の関係機関との連携についての記載についても今後検討いただきたい。
- 事務局 : ④61ページの図は市で作成したもの。各分野の重なる施策をイメージしやすくまとめたもので、2分野以上に関わる事業等について例示しているため、全ての施策が記載されている訳ではない。
⑤75ページは、現状と課題であり、77ページに目標に向けた取組を記載している。教育委員会との連携と記載はないが、「小中学校でのたばこの健康被害や受動喫煙防止の保健教育を行う」としており、連携を図っていく予定でいる。
- 委員 : ⑥10ページ(特定健康診査の状況):「年代に比例して低く」という表現は誤りでは。「年代に比例して高く」もしくは「若い年代ほど低く」とすべきと考える。
⑦55ページ(次期計画に向けた方向性「健康を守るための環境整備」):パーソナル・ヘルス・レコード(PHR)は一般の方には伝わりにくいので注釈を付けるべき。
⑧33ページ(身体活動・運動の推進「全体の評価・課題」市民アンケートのメディア)と71ページ(休養・睡眠「現状と課題」市民アンケートのメディア):市民アンケートの結果をもとに、現計画での課題として「身体活動や運動の時間の減少」としているのに対して、次期計画の現状として「休養や睡眠の時間の減少」としており、必要とされている内容が運動から休養・睡眠に変わっているように感じる。2022 学校保健統計が示され、視力 1.0 未満のこどもの割合が過去最大となっている現状から、休養や睡眠の減少に加えて「目の疲れ」の影響についても追加できないか。
- 事務局 : ⑥表現の方法については整理させていただきたい。
⑦注釈は巻末139ページに記載はあるものの、情報不足については補足検討する。
⑧「目の疲れ」に関する記載についても記載検討する。なお、こちらは、前回の会議においてご指摘いただいた項目であり、メディア利用の増加による運動時間の減少については、(69ページの)知識の普及啓発において取り組む予定。また、こどもの発達への影響についての懸念もあることから、母子保健指導の中で注意喚起を行っており、継続して取り組んでいく。
- 委員 : ⑦「個人の保健医療情報であるパーソナル・ヘルス・レコード(PHR)は・・・」の一文は、同じことを日本語と英語で記載するためわかりにくくなっているため、全て同じことだと明確に伝わるように「個人の保健医療情報(パーソナル・ヘルス・レコード:PHR)」とすることで、血圧や健診記録などの個人の医療情報と理解できると思う。そうすれば、巻末の注釈も不要と考える。
⑧メディアの利用増加の影響に関する表現についても、「運動や睡眠などの身体の健康を維持する活動に影響を及ぼす」と一括りにすれば、先ほどの疑問点は解消され则认为る。

- 事務局 : ⑦⑧表記については改めて検討をさせていただく。
- 委員 : ⑨61ページ(施策の重なりイメージ図):他の委員の意見④にあったように、「健康増進」のエリアの施策が手薄に感じるし、「運動」の表記があった方がよい。
⑩71ページ(休養・睡眠「現状と課題」市民アンケートのメディア):他の委員の意見⑧にあったメディア利用について、学校では、ゲーム等の時間を減らすように、メディアコントロールの指導をしている。実際に脳科学者のデータとして、スマホを操作する子は操作しない子と比べて学力が低いとされており、脳に与える影響が大きく、学力も低下するので、メディア利用について触れても良いと考える。
⑪84ページ～(循環器病):コレステロール値に関する記載がLDLコレステロール値のみだが、近年はHDLコレステロール値が重要視されていると聞いた。評価指標とするまでは求めないが、12年計画のため文面に組み入れる必要はないか。
- 事務局 : ⑨あくまで各施策の重なりを確認する意味合いで作成した図であり、そのように見ていただきたい。なお、健康増進のエリアにある「生活習慣の改善」には、60ページ記載のとおり「身体活動・運動」の施策を含んでいると考えていただきたい。
⑩メディア利用の脳への影響を危惧する一方で、タブレットを取り入れた学習活動も開始されており、全てが悪いような記載はできない。特に、本市ではスマートシティ推進を掲げて事業展開しており、スマホを利用した取組も多々ある。あくまで、現状ではメディア利用が増加していることを課題として中立的に記載しているもの。
⑪個別の脂質異常の特定保健指導では取り入れているが、全員対象ではない。
- 委員 : ⑪LDLは悪玉と言われ、大きいコレステロール。HDLは善玉と言われ、小さいコレステロール。この中間の大きさのノンHDLと言われるコレステロールが、動脈硬化の一番の要因という医師も相当多い。ただし、今までLDLを下げるよう取り組んできた医療を否定することになり、またその見解自体の整合性が取れていない現時点においては、施策として盛り込むことは適当とは言えない。よって、LDLを下れば下げるほど良いという考えが正しいとは言い切れないものの、現段階ではLDL以外を指標とすることも適当ではないため、現状維持が妥当と考える。
- 議長 : この計画の見直しは中間評価で行うと思われるが、その際に内容修正を加えることはあると考えて良いか。
- 事務局 : 新たな指標が出てきた場合などは、中間評価において加えることは可能だが、冊子全体を修正することはなく、中間評価分の別冊子を追加で作成する予定。
- 委員 : ⑫これまでの議論にあったICTと、会長あいさつにあった県内トップの地域を目指すということから、福島市・郡山市・いわき市の3市と比べると、会津大学とAiCTがありデジタルの利活用という点で優位性があると考えている。この計画においても、55ページ(次期計画に向けた方向性)と106ページ(社会環境の整備と質の向上)にICTの記載があるが、健康とICT利活用推進という枠組みにおいて、現時点における事業や取組について教えていただきたい。
- 事務局 : ⑫この計画とは別事業になるが、昨年度から国のデジタル田園都市国家構想交付金事業の認可を受け、自動血圧計を活用した遠隔診療を実施している。また、竹田総合病院との連携事業がいくつか展開している。これ以外では、先ほどのPHRにも関係してくるが、数年前から電子母子手帳事業「OYACO PLUS」の推奨にも取り組んでおり、お子さまの健診情報をスマホで確認できるようになっている。また、学校健診情報の電子化についても、京都大学連携の下取り組んでおり、通常紙媒体で卒業後処分されてしまう健診情報を電子化し、中学3年時点で同意を得た保護者に還元している。このようなPHR構築に向けた取組にも着手している。

議長 : 他に質問やご意見等ないようなので、お諮りします。
様々なご意見等ありましたが、大きな変更等の必要はないと思われることから、再度協議会を開催して検討する必要はないと思われます。
本計画の方針・内容で承認するというので、本日の議事終了後に答申することで宜しいでしょうか。

(異議等なし)

異議等ないことから、承認とさせていただきます。
委員の皆さまと市・行政は身近な間柄ですので、普段からご意見等の情報交換をお願いしたい。

(5)答申 「第3次健康わかまつ21計画」の承認(会長より市健康福祉部部長へ)。

(6)その他

【事務局より連絡】

・新型コロナウイルスワクチンの全額公費による接種は、令和6年3月31日で終了。

5 閉 会